

皆さん、こんにちは。城北支部広報部です。2月11日（木、祝）東京シティエターミナル「T-CAT」にて“診断士1年目の会 2015”が開催されました。この会を城北支部代表の幹事として取り仕切った遠藤先生の奮闘を特集します。

1年目の会の幹事を終えて 城北支部 遠藤 康平先生

Q そもそも幹事になったきっかけは？

松本青年部長からご推薦いただき、朝倉支部長を通じて東京協会に正式に承認されました。

松本先生とは、企業内診断士フォーラム(KSF)からの帰宅中にお話しする機会があったことから、当職を思い出していただけたのだと推察します。もともと、杉山健二先生の実務補習受講者グループ「すぎけん塾」の先輩から、そのようなイベントがある話を聞いており、どうにか幹事になれないものかと考えておりました。結果的に、KSFの見学が青年部長へのアピールにつながっていました。

Q 幹事としてのもくろみは？

三つの目標を設定しました。

一つ目は、『一年目の会の伝統に新しい爪痕を残すこと』。

先の「すぎけん塾」の先輩の発案で、「一年目の会」幹事はニックネームで呼び合うようになりました。

当職は、そのため【幹事打ち上げの廃止】を実現しました。

例年幹事だけが集まって行うこぢんまりとした「打ち上げ」を、ご来賓や参加者が一堂に集う大規模な懇親会に改めました。そのため、幹事同士の絆＝「こぢんまりとした打ち上げ」にこだわる幹事を強引に説得する場面もありました。最終的には、小黑東京協会会長に駆けつけていただくなど、30名超の診断士が一堂に集う大イベントになりました。

二つ目の目標は『既成概念の撤廃』。

そのため当職が打ち出した案は【幹事長の廃止】でした。リーダーシップとマネジメントの違いについては、中小企業診断士相手に釈迦に説法も甚だしくはありますが、私の役目はこの役割分担の改革である、と考えました。具体的には、「幹事長」に期待されている「アーキテクト」と「プロジェクトマネージャ」の職掌分割です。

「アーキテクト」は、具体的には尾形光琳やスティーブ・ジョブスなどの名前が挙げられます。

それに対して「プロジェクトマネージャ」はしょうか（三国志の劉邦の天下統一を助けた政治家）やスティーブ・パルマーなどが挙げられます。

そして、前者がリーダーシップ、後者がマネジメントに対応しています。

日本が世界的にも一定のプレゼンスを発揮している、野球やサッカーといったプロスポーツでは、「フロント」と「GM」の役割分担が比較的成功していると私は考えています。

Q 新しい取り組みに対する周囲の反発は？

このコンセプトについては、ご支援いただいた会員部の方にはご理解いただけたようですが、残念ながら他の幹事には理解されなかったようです。

いまだ、日本企業の中では、リーダーシップとマネジメントの職掌分割がうまくいっていないのかもしれませんが。診断士として、多くの先生方と名刺を交換する中、私の手作り感満載の名刺と立派な企業の名刺とがどう考えても等価交換になっていないことを気にしております。

立派な名刺を作る立派な企業は、日本国内で相応の伝統があり、そこに勤める幹事たちにとっては、この職掌分割は非日常だったのかもしれませんが。私は、それに気づくことができませんでした。

結果、私は「幹事長としての仕事＝マネジメント」をサボるダメ上司、と受け止められていたようです。

六支部に上下関係がない以上、各支部の代表にも上下関係があるわけがない、との思いは受け止められることがありませんでした。上司/部下のような関係性に対する居心地の悪さも感じておりました。

Q 講師選定時のトラブル

各支部で候補を挙げアプローチするように発案しましたが、他の幹事はそれを無視したり、反発したりといった出来事がありました。

私が各自に提案を求めた理由は、

(1)先方の都合によりお断りされる可能性があること

(2)イベントの主旨に沿って、多様な来賓をお招きするのが好ましいと考えられたこと

(3)会員部の先生からご紹介いただいた講師では、「一年目の会」幹事として力不足を露呈し、恥ずかしいこと私個人の勝手な心情ではありますが、「いかに優秀な診断士であろうが、思いの重ならない相手とは一緒に仕事したくありません」。

とくに(3)の点について、他の幹事が一切危機感を表明しなかったことに、私は【絶望】しました。

以来、私の幹事としてのモチベーションは急降下し、いつしか「やめたい」とまで信頼する同期診断士にこぼしていました。

さらに、私から提案した 2 名の講師のうち、1 名についてこちらの都合でオファーを取り下げなければならない事態に直面しました。

私のモチベーション低下とともに、「一年目の会」の企画の中身もなかなか固まらないまま無駄な時間だけが過ぎてゆきました。

さて、遠藤先生は無事にイベント当日を迎えることができるのか？

続きは、次号でお伝えします。

城北プロコン塾より ～「塾生のひとり言」～ 石田 美帆先生



企業内診断士として、開発途上国の援助の仕事をしています。以前、途上国のビジネス環境改善のプロジェクトを担当していたのがきっかけで、診断士の勉強を始めました。昨年 4 月に診断士登録を果たし、1 年目となる今年度は、プロコン塾への参加や商店街支援など、さまざまな活動に参加させていただき、充実した時間を過ごさせていただきました。

さて、職業柄、時々海外に行く機会があります。これまでに訪問した国は約 30 カ国。まあまあ多いほうかもしれませんが。海外に行くと必ずするのが「地元のおいしいものを食べること」。タイではスパイシーな味わいのトムヤムクン、グアテマラやエルサルバドルでは素晴らしく良い香りのコーヒー、炎天下のパレスチナでは爽快なレモンウィズミント、イタリアでは未体験なおいしさのマルゲリータ。嗚呼また食べたい！

おいしいものを食べるのは、単に食べるのが好きだからなのですが、食を通じて文化を感じることもできます。中国の餃子、ロシアのペリメニ、グルジアのヒンカリ、トルコのマントゥ。どれも肉などの具を皮で包ん

だ料理です。シルクロードを通じて食文化が伝播したのだなあと壮大さを感じます。また、似た料理でもその土地その土地で生まれ、国の文化として発展していることにも気付きます。中央アジアなどで広く食べられているプロフ。タジキスタンで「うちの国のプロフが一番うまいよ」と話すのを聞いて「やっぱり自分の国の料理が誇らしいのだなあ」と改めて感じました。

輸送技術や通信技術の発展で世界が急速に近づく中、中小企業の皆様が、他者と融合しながら、そして自らに誇りを持ちながら活動できるような、支援がしていければと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

②皆さまが知りたいことを教えて下さい

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
 - ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。
- ⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

③読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

④本誌編集スタッフ募集中

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部：johoku.kouhou@gmail.comまで よろしくお願い致します

JOUHOKU SHINDAN 誌

～1年目の会（前半）～

2016年3月2日発行

発行者：城北支部長 朝倉久男

編集者：城北支部 広報部